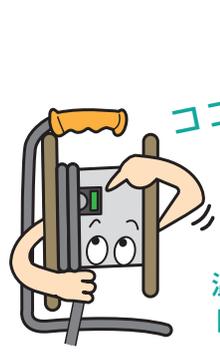


# 電線の溶解・焼損事故を防ぐ 温度センサーのご紹介

巻いたまま長時間使用したり、定格電流を超えて使用すると起こる電線の異常な温度上昇を内蔵の温度センサーが感知し、コンセントへの給電をストップします。



温度センサーは電線を引き出したドラム部に内蔵しています。



## どうして電線が発火するのか？

コードリールの電線は中筒ドラムにコイル状に何層も巻かれており、電流が流れることにより抵抗熱が発生します。電線をドラムに巻いたまま長時間使用したり、定格電流を超えた電流を流すと、異常加熱を起こし、電線の被覆が溶け、発火してしまいます。



**過電流によって溶解した電線(溶解実験写真)**  
定格電流が6Aのコードリールに巻いたままの状態です30Aの電流を流す。  
→電線温度が100℃を超えると電線表面が軟化し始める。  
→30分~40分で電線温度が約190℃まで上昇し、溶解、短絡。

## 温度センサーの種類について

### 手動復帰型

電線温度が下がったら、復帰ボタンを押して電源を復帰させます。



### 自動復帰型

電線温度が下がったら、自動的に復帰します。



## 温度センサーの復帰方法

※手動復帰型の場合

- 1 接続している機器のプラグをコードリールから抜きます。
- 2 電線を全長引き出します。
- 3 電線温度を下げるため、十分に冷却します。
- 4 復帰ボタンを押すと復帰します。